

第1号議案 2020年度（令和2年度）活動・事業報告

I 要望活動

1. 《大家連要望書》

【大阪府知事宛て】2020年度要望書を提出：11月30日

1. 重点課題「障害者間格差の解消」
 - ① 重度障害者の医療費助成
 - ・ 高齢者に対する医療費助成の継続実施
 - ・ 2級の手帳保持者への支援
 - ② 公共交通機関の運賃割引
 2. 精神科医療
 3. 地域生活の充実、地域移行に向けて
 4. 教育
 5. 雇用
- (2) 文書回答の受領
コロナ感染状況に鑑み、意見交換会は実施しない

【大阪市長宛て】 2020年12月7日提出

1. 重点課題
障害間格差のない医療費助成、交通割引助成の実現
 2. 精神科医療
 3. 地域生活
 4. 教育
 5. 精神障害者に対応する地域包括ケアシステムの推進
 6. 大阪市から国への制度施策改善の働きかけ
- 2021年3月17日回答あり

回答書をふまえ

630調査結果開示、
大阪市営住宅自治会対応、
コロナ感染対応

3項目について

大阪市 大家連意見交換会実施要請中

【大阪府議会・大阪市議会・会派への要望】

- (1) 各会派にODF作成冊子「大阪の重度障害者医療費助成制度の拡充をめざして」配布
- (2) 神出病院事件等を踏まえ、衆参両院議長及び厚生労働大臣に対し「精神保健福祉の改善を求める意見書」提出を求める陳情書を議長へ提出：3月3日
府議会事務局から、陳情は、「各派幹事長・政調会長に送付した」との通知を受領
- (3) 《コロナウイルス感染対応に関する緊急要望書提出》
 - ① 2020年5月20日 大阪府知事宛て提出
「新型コロナウイルス感染の早期終息に向けての緊急要望」
高齢者障害者への早期検査実施と早期治療開始の要望

- ② 2020年6月16日 大阪府知事宛て提出
「新型コロナウイルス感染症治療に関する緊急要望」
コロナ弱者を作らない障害者、高齢者に配慮したPCR検査場所の増設、開示と軽症段階の治療の実現
- ③ 2020年10月1日 大阪市長宛て
「新型コロナウイルス感染予防対策の充実と、都構想投票に関わる緊急要望」
都構想住民投票を取り下げ、コロナ感染要望策に全力を尽くすこと
- ④ 2021年2月3日 大阪市議会議長・副首都推進局あて
「大阪市広域行政一元化条例案 8区総合区案に関する陳情書」
11月3日住民投票結果を踏まえ、成長戦略より障害者施策充実、コロナ対応の充実が喫緊の課題であるとして、市会事務局陳情書提出と市会者クラブ記者会見（倉町会長 大野副会長 東成家族会会員 合田亨史さん）
3月17日副首都推進局より回答あり
財政総務委員会で、自民、共産は賛成、維新反対で、継続審議となった。
3月府議会 市議会において「広域行政一元化案」要望に反して可決した。

II 公益事業

1. 電話相談

◎別表「2020年度相談実績報告書」から

2020年度は年度当初からのコロナ感染拡大と緊急事態宣言発出が2回あり、電話相談体制は、相談員の安全を確保するため、対応時間短縮（11時から15時）対応日縮小（月、水、金）の組み合わせで乗り切らざるを得なかった。

相談者の特徴は前年度同様の傾向がみられ、当事者の比率が7割を占める結果となった。

家族からの相談で例年母が最多であり、若干兄弟姉妹の増加傾向がみられた。

相談内容では、9割が生活に関する相談であった。地域の当事者と居場所、相談場所との連携の不十分さも垣間見られた。

◎ケース会議

6月 7月 10月 の3回の開催にとどまった。

事例を共有し、問題に沿った相談の在り方を協議することは有意義であった。

相談者の混乱を整理する一助としての受け止め、共感を旨とする対応の工夫を協議すること

とは有意義であった。遠塚谷顧問、小出相談役の豊富な経験と知識、社会資源活用などの視野からの助言は貴重であった。

相談の難しさにおいては、服薬拒否、医療に安定してつながること 家族間の病気理解の難しさに伴う、家族関係のもつれ、日常を支える家族負担など、傾聴を超える難しさが提起された。

別表1 2020年電話相談年間集計表 添付

2. 大阪府精神障がい者社会参加支援事業（精神保健福祉講座事業）

(1) 講座の内容

○病気の理解と治療

地域で暮らすために精神医学は何ができるか」③ 中止

発達障害とはなにか。⑦ 中止

「オープンダイアログを実践する」② 中止

○制度・社会資源として

「福祉の社会資源を学ぶ」① 7月11日(土) 小出 保廣氏 開催 67名

「精神医療を正しく理解するための教育の必要性」⑥ 中止

○家族支援

「8050問題を考える」④ 中止

「当事者の暮らし報告」⑧ 中止

「親あるうちに備えよう親亡き後」⑤ 中止

冊子「私たちの暮らし・想い」 2000部発行配布

(2) 特記事項

2020年度のコロナ感染状況拡大の状況をふまえ

第一回「福祉の社会資源を学ぶ」を実施したものの、講師、会場の手配が済んでいたものの、受講者及び主催者連講座委員の半数以上は高齢者であるため、健康と安全を考慮し、状況を見ながらキャンセルのやむなきに至った。

代わりに、冊子「私たちの暮らし・想い」として、家族当事者の体験などによる文章と絵画を募り、2000部作製し配布して、好評を得ることができた。

3. 啓発事業

(1) だいかれん誌の発行

- ・年4回発行、家族会、精神科病院・診療所、保健所等へ配布(4500部)
- ・会員、理事で構成する編集委員会にて企画、編集、配布を実施
- ・経費は、大家連の負担金と赤い羽根共同募金交付金(541,000円)により実施
赤い羽根共同募金によるご支援に深く感謝いたします。

III 他団体との連携

1. 全国との連携、障害者団体との連携

(1) みんなねっと(全国精神保健福祉会連合会)

① 全国大会は中止

② 「精神保健福祉の改善を進める3つの提言」を検討

- ・精神医療の抜本的な改革をめざして「政策委員会」で検討
- ・3つの提言(案)が提案され、今後会員の声を聴いてまとめ国等へ要望していく
- ・各県連の代表者等を対象にオンラインによる勉強会を実施：3月21日

③ 「医療費助成について」勉強会を実施

- ・各県連の代表者等を対象にアイゼンオンラインによる勉強会を4回実施、次年度も予定

(2) みんなねっと近畿ブロック

① 近畿2府4県の会長による「近畿ブロック代表者会議」を定例的に開催

各府県連の経験、取組み(議会への働きかけ、交通費の減免の活動など)を共有化

神戸市「神出病院事件」に関わる兵家連の精神保健医療福祉改善に関する問題提起を共有した。

②「近畿ブロック研修会」は中止

(3). 大阪障害フォーラム (ODF) : 府下 28 団体で構成

① 大阪府との定例意見交換会 (2 回開催)

大家連からは、医療費問題、精神障害者の地域生活等について要望

② 重度障害者の医療費助成の拡充に向けて取り組み

- ・ 高齢者に対する医療費助成の継続実施
- ・ 2 級の手帳保持者への助成拡大

③ 冊子「大阪の重度障害者医療費助成制度の拡充をめざして」を作成、関係個所に配布

④ 旧優生保護法による強制不妊問題について

- ・ 府知事に、被害の調査、「一時金支給」の周知徹底等を求める要望書を提出

IV 仲間作り

○配偶者。パートナーの集い

今年度はコロナウイルス感染症拡大の影響で、中止の月が多く、6月・9月・10月・3月の4回になりました。

6月(5名)・9月(5名)・10月(3名)・3月(3名)と参加者の数は少ないですが、毎回約半数が初めての方、配偶者の立場の悩み・苦悩が多いが、相談や悩みを話せる場所もなく、参加した時は日頃の思いを出しています。

なかなか継続した参加にはなりません、「配偶者・パートナーの集い」があることを探し出し、問い合わせてください、参加していただくことで、大家連の存在を知ること、会員拡大につながればと思います。

○おしゃべりカフェ

10月11日(日) 一回の開催。11名

新型コロナ感染拡大の影響で4・6月は開催できなかったもので、同じアクネックスパル4階の「飛行船」の作業所をお借りして開催できたとことの喜びを共有した。今回初めて参加された方の現在の状況や不安に思っていることなどを参加者で経験を踏まえ議論した。その後、久しぶりに顔を合わせたので、参加者の最近の状況の変化などを報告しあった。次回も「飛行船」をお借りして開催する予定。

「おしゃべりカフェ」は何よりも気楽に参加できる集まりであることを第一としています。

会員でない一般市民、家族、当事者も大歓迎です。

人はひとりひとり考え方も価値観も違いますので、それぞれの思いを語り合える場を作っていけたら幸いです。